

2011

1

目次
CONTENTS

- | | | | |
|---|-----------------------|----|-----------------|
| 2 | 年頭のごあいさつ | 10 | 那珂市消費生活センターです |
| 4 | 民生委員・児童委員が
改選されました | 12 | 協働のまちづくり Q&A |
| 6 | 水鳥 | 13 | まちの話題 |
| 8 | 人事行政の運営等の
状況を公表します | 17 | Information ほか |
| 9 | 市民課窓口での本人確認について | 18 | さわやかさん、表紙の裏側 ほか |



よいしょ！よいしょ！お餅つきだよ！（横堀幼稚園：防火餅つき会）

水鳥

13

横手の金沢柵
かなざわのさく
(古代東北の城郭)



◆「後三年の役合戦絵巻：金沢柵」
；「原色日本の美術 8」

康平5年(1062)、父源頼義・義家(八幡太郎)父子は陸奥国の豪族安倍氏を倒して東北を平定(前九年の役)、京へ戻って戦勝を報告した義家(24歳)は2歳年下の青年學者大江匡房(まさふさ)から「まだ兵法を知らない、お若い、お若い」と言われたが、腹も立てずに素直に教えを受けた。その後の義家は、寛治元年(1087)には東北出羽国の豪族清原氏を倒して東北の平安を保った(後三年の役)。その時に大江匡房から受けた教えが生きた。「飛ぶ雁の列が乱れるのは下に伏兵あ



◆「戸板の渡し」

り」と知り敵を破ることができたのである。そこは金沢柵で秋田県横手市、後に戸村(那珂市)の城主が城代家老となった所でもある。現在は展示資料館を持つ「平安の風わたる公園」として整備されている。この源義家の弟義光(新羅三郎)が常陸に土着して佐竹氏が起こっていくのである。

那珂川周辺

この源頼義・義家父子の東北遠征に関する伝説的史跡は、県内各地に存在している。当那珂市域においてかなりの数に上るが近くは水戸市

八幡太郎源義家伝説

歴史民俗資料館

渡里の「長者屋敷跡」、歓待したのに謀反を起こされてはと殺害された長者の悲劇で、ひたちなか市の「長者ヶ谷津」や旧金砂郷町葉谷の「長者屋敷跡」も同じ伝説。渡里から北上して藤井町の「十万原」、ここは義家の軍勢が陣を敷いた所。「戸板の渡し」は戸の龍昌院の西方辺り。義家の軍が那珂川を渡る時に「戸板」を並べて渡った場所であるという。東の台地へ進むと飯田の「曲松」、義家が休息した時のお手植えの松と伝えられ、長い間親しまれてきたが枯死して今はない。

「菅谷」は、義家がこの村に立ち寄った時、村人がこの辺に生える菅で笠を編んで献上し、喜んだ義家が与えた村名という。両宮の一つ八幡神社は戦勝の御礼として義家が勧請したと伝えられている。鹿嶋神社の「大助祭」も「お助け軍の名残り」で、戸崎の鹿島神社の「大助祭」も同じである。

駒形神社周辺

鴻巣から瓜連方面へ向かうと地名に「木戸前」があり木戸氏の館跡も

ある。義家が出陣の折りの館所といわれ木戸を設けた場所であるという。館跡の真ん中を水郡線が通っている。この東方白河内地区内に「五万木平」といわれる平地が広がっている。義家が五万騎の軍勢を休息させた所という。この東方南酒出字宮の台には「駒形神社」がある。義家が戦勝を祈願して田地を寄進したという。本殿三面は、安永10年(1781)石岡の彫師嶋村伊三郎作の浮彫彫刻で囲まれている。その内の二面が義家関係であるが、昭和20年(1945)の敗戦後、軍国調であることから一部が削り取られたことは惜まれる。



◆「駒形神社」



◆「鞍掛石」

駒形神社北方の門部地区には「駒の膝」説話がある。義家が断崖急坂にさしかかった時、自分の馬の健脚さを試してみようと駆け上げさせたところ、不幸にも力尽き倒れてしまった所であるという。義家はこの馬を付近の谷津川に捨てたが、土地の人々が馬の遺骸を引き上げ駒形神社に祀ったともいわれる。この年、義家は馬が死んだ凶年として越年のために小屋を造った所が「小屋場」であり、この地域には屋根を瓦葺きにするとその家は滅びるとの言い伝えがあった。義家に遠慮して立派な家はいけないということか。門部地区に伝わる「門部ひよつとこ踊り」は、義家軍を慰労するために始められたものと言う。「鞍掛石」は、昭和30年12月、地元綿引姓一同によって建てられた碑で、字小屋場の谷津川に沿った丘陵上にある。この石は、わずかに露出していて鞍の形に似ている。義家が鞍を馬からはずしてこの石に掛け休息したところ、後日その石が鞍に似てしまったという。堰



◆「化粧坂」

場地区には「楯石」という巨大な石が露出していた。義家が小屋場に陣所を構えた時、そこから大石を楯として矢を放ったことから名付けられたという。

額田の鹿島八幡神社（額田神社）の八幡神社は康平6年（1063）頼義が前九年の役から帰る途中、戦勝に感謝して西馬場の地に創建され、後に額田城主小野崎義通が再建し、元禄8年（1695）に徳川光圀が現在地に移して鹿島神社に合祀したとされる。

久慈川周辺

瓜連鹿島には「化粧坂」がある。久慈川流域を一望できる所であり、義家が家来たちと清水をもって化粧した所という。また、義家が休息している時に里人が献上物を差し上げた所といい、「献上坂」がなまって「け

じようざか」となったとか。同所の久慈川渡し付近の字を「八幡瀬」という。義家が浅瀬を選んで対岸の小島へ渡ったという。大塚不動尊には、突然飛びかかった犬が義家に斬られたが、その犬が石に変わったと伝えられる傷ついた石が祀られている。



◆「八幡瀬」

静神社の東隣りに桂木稲荷神社があり、その境内に巨大な老樹「静のムクノキ」がある。義家が戦勝を祈願した際、持参した鞭を地上に挿したものが根付いたものといわれている。「武具取り坂」は下大賀から常陸大宮市へ向かう坂、後三年の役を終えて凱旋の途次、安心して武装を解き休息した所という。

これら多くの伝説や史跡から、地域の人々の八幡太郎義家への思いが伝わってきます。一巡りするのも楽しいことと思います。



◆「静のムクノキ」

講演会のご案内

季節展示「ひな人形展」を開催します

- ◆期 間 平成23年 2月5日(土)～3月13日(日)
- 展示講演会
- ◆日 時 平成23年 2月20日(日) 10:00～
- ◆テーマ 「青い目の人形」と答礼人形「筑波かすみ」
- ◆会 場 那珂市中央公民館
- ◆講 師 筑波かすみ里帰り実行委員会
事務局長 北村 栄子氏
- ◆申 問 歴史民俗資料館 ☎297-0080